

相互貸借活動の歩み

林 伴 子
(社会保険神戸中央病院)

I はじめに

相互貸借は図書室相互協力活動として欠くことのできない業務のひとつである。近畿病院図書室協議会ではそれぞれの図書室の実態を把握するため、昭和56年度より年次統計調査を実施している。その中で、相互貸借についての調査は、各機関での業務推進のための資料としても重要であることから、それに先立つ1976年より開始した。調査結果は毎年の協議会総会において報告されているが、1982年に相互貸借活動推進の経緯とともにまとめられている⁽¹⁾。今回近畿病院図書室協議会15周年を機会に今一度相互貸借活動に対する協議会のあゆみを振り返るとともに、1987年までの調査結果をまとめたので報告する。

II 相互貸借関連事業

協議会では、相互貸借活動推進のため、早くから会報・研修会などで会員への啓蒙を行ってきた。また、相互貸借を円滑におこなうための事業にも取り組んできた(表1)。会報には、表中の記事以外にも、役員会報告などで、関連事業の進行状況も随時掲載されている。

初期の相互貸借活動の基礎となったのは、1975年の所在目録の発行、1976年のBLLD(現BLDSC)クーポンの利用開始、相互貸借用往復ハガキの作成である。

所在目録発行の折には、複写料金・複写設備の有無・機種についてアンケート調査を行い、これらの事項も目録に載せた。また、これを機会に料金の組織内統一を計り、現在、一部を除き1枚35円に規定している。

相互貸借用往復ハガキは、日本医学図書館協会(JMLA)のものに準じて、JMLA中央事務局の承認を得て、ほぼ同様のものを作成した。

BLDSCの利用は、センターを設置してサービスを開始し、海外への依頼の増加をみることにあった。

次の段階では、総合目録の発行が大きな影響を与えたが、これについては後述する。

なお、総合目録は来年度には欧文編・和文編の改定が予定されている。

III 相互貸借調査

1) 調査期間及び回収状況

1976年から1980年までは1月～12月を対象とし、1981年からは年次統計にあわせて4月～3月の1年間とした。また、昭和61年度からは同時期に行なわれていた年次統計に組み込まれるようになった。回収状況は表2に示した。回答率は60～80%と徐々に高くなっている。

2) 調査項目

1979年までは依頼件数の調査を行ない、1980年より受付件数調査を加えた。また、1980年までは件数・依頼先別調査だけでなく、対象となった収録誌別調査、発行年別調査も行なっている(表3、4)。受付件数調査では受付機関数・総件数・複写枚数を調査項目にあげている。

3) 調査結果

依頼件数の推移を表5に、依頼先別件数の推移を表6に、受付件数の推移を表7にまとめた。調査対象機関数は、記録の不備などから回答の得られなかった機関もあるので、相互貸借実施機関数ではない。しかし、実施数が多くなっていることは表から読み取れる。

これは協議会加盟機関が増加したためだけでなく、図書室業務として相互貸借の必要性が認められて

きたためと考える。また、前述したように、協議会が充足時より組織として相互貸借への体制を作り続けてきた成果ともいえる。

調査対象機関数は調査を開始した1976年には21機関(55.3%)から1987年では45機関と、1977・1978年のように40%以下になった年度もあったが協議会加盟機関の70%近くを占めるようになって来た(表5)。

依頼件数は総件数では9000件以上と増加しているが、平均件数としては若干減少傾向にある。これはそれぞれの図書室での資料の充実の結果といえるかもしれないが、文献複写の需要が減った訳でなく、文献入手の方法として他の手段を利用していることが大きな原因と考える。やっ和高まってきた相互協力活動に対する図書室側の意識と、簡便さを求める利用者の意識の違いと言えらうが、医師以外の医療スタッフの利用は私共の施設では増加しており、他の機関も同様ではないかと推察する。

依頼先別件数を見ると、1981年の総合目録欧文編発行以後、加盟施設への依頼が飛躍的に増えた。特に欧文編の場合には発行後の調査の結果では表6にあるように、加盟機関に対する件数は、1,411件(1980年)から2,463件(1981年)と大きく伸びた。調査開始時からみると、396件だったのが1987年には3,186件と約8倍になった。

依頼の割合では、協議会加盟機関へは和文編が発行された1984年の37%を最高に常に30%前後である。しかし、医学図書館協会(JMLA)加盟図書館に対する依頼件数は総合目録発行後も依然として多く、全体の60%近くを占める。JMLA近畿地区と、近畿外との割合はほぼ半数である。

受付件数調査でも調査対象機関数が実施機関そのものではないが、1987年には49機関(会員の74%)になった。総件数と1施設での最多受付件数の比から分かるように、1施設に集中していたのが多少は分散されてきた。また、受付先の大半は加盟施設からのものであるが、ほとんどの年度で受付件数が依頼件数を大幅に上回っている。これには回収率の低さが影響していると考えられる。

表中には別掲しなかったが、受付件数の中には

加盟機関以外からの依頼も多少ある。これは、総合目録を加盟機関以外にも頒布することとなったためである。頒布するか否かについては議論を重ねた結果、他機関との関係も考慮して頒布することとし、会長名で各機関の了承ならびに協力を呼び掛けた。

この総合目録に参加したことにより始めて依頼を受けた施設も多く、相互貸借活動を始めるきっかけとなった機関もある。このことから、相互協力活動を推進する上で総合目録の果たした役割は大きい。

表には入れなかったが、現物貸出も件数は少ないながら、毎年数件行われている。

IV まとめ

協議会の相互貸借活動のあゆみと、1976年から1987年までの相互貸借調査をまとめてみた。前述したように、ここ3~4年は依頼件数、受付件数とも総件数では大きな変動はなく、平均件数では減少傾向が見られる。しかし、実施施設は数的にも加盟施設に占める割合でも増加してきた。これは、文献相互貸借が相互協力活動のひとつとして定着してきたことを表している。

相互貸借はスペース、資料数ともあまり多くを期待できない病院図書室にとって、充実を計る必要のある業務である。最近ではファクシミリを備える施設も増え、文献入手の時間の短縮が計れるようになってきた。また、料金支払いの方法も郵便振替口座を図書室が持つ機関も多い。こうした状況から次回の総合目録改訂版には各施設のFAX番号、口座番号なども記載し、利用しやすくなる予定である。

こうした協議会としての相互貸借活動の推進と共に、利用者の要求に応えることができる図書室を目標に、各々努力を続けてゆかなければならない。

参考文献

- 1) 加島民子：近畿病院図書室協議会における相互貸借活動のあゆみ、医学図書館、29：214~221, 1982。

表1. 相互貸借関連事業

	関 連 事 業	啓 蒙 活 動	
		会 報	研 修 会
1975			
3		2(3): 巻頭言 「総合目録」作成への第一歩	
4		2(4,5): 巻頭言 「相互協力」への始動	
8	利用者ニード調査		
10	「病院図書室・医療関係雑誌所在目録 1975」	2(9): 巻頭言 大学図書館の利用	
	複写料金の調査ならびに統一化		
1976			
4	BLLD クーポン共同利用開始		
5	相互貸借利用統計開始		
6	「相互貸借用往復ハガキ」の作成		
1977			
9		4(3,4): 巻頭言 図書室相互協力の大切さ	
1978			
1	「病院図書室・医療関係雑誌所在目録 (欧文編)追加版 1976-77」	4(5): 学会報告 院外文献複写依頼 状況調査報告	
8	医学雑誌総合目録(欧文編)作成開始		
1979			
1		5(5): 1977年度院外依頼文献調査	
9		6(6): 寄稿文 相互貸借	近畿地区 JMLA第2回 実務者会議-相互貸借 (利用)について-
10		6(7・8・9): 学会報告 近畿地区を中心とした 病院図書室間の相互 協力	
1980			
6			第23回研修会: 医学用語・相互貸借
1981			
6	「医学雑誌総合目録」(欧文編)発行		第27回研修会: 講演・ディスカッション -相互貸借-
8	医学雑誌総合目録(和文編)作成開始		
1982			
3	目録調査センターの設置	会誌「病院図書室」 2(1): 相互貸借について	
8			第32回研修会: 病院図書室の実務 ④相互貸借
9		9(3): 巻頭言 著作権法と病院図書 室	

表1のつづき

	関 連 事 業	啓 蒙 活 動	
		会 報	研 修 会
1983 9		10(3): 学会報告 近畿地区病院図書室 の相互貸借活動につ いて	
1984 3	「医学雑誌総合目録」(和文・国内欧文 ・華韓編)発行		
1984 4	病院図書室マニュアル「医学資料の整理 と利用」 - トシマ参考図書より刊行 -		
1986 9			第47回研修会(全国研 : 図書館の相互協力
1987 3	「医学雑誌総合目録」(欧文編)第2版 発行	会誌: 病院図書室 7 : ・各種図書館団 体の相互協力 ・シンポジウム 「相互協力網 を作るために」 昭和61年度日本病 院会全国図書室研 究会	
1987 5		14(1・2): 寄稿文 相互貸借におけるフ ァクシミリ利用の提 案	
1989 7			第56回研修会: 相互貸借について

表2 回 収 状 況

年	会員数	回答数	回答率	年	会員数	回答数	回答率
1976	38	21	55.3%	1982	60	34	56.7%
1977	38	15	39.5	1983	62	36	58.1
1978	45	16	35.6	1984	60	36	60
1979	50	24	48	1985	62	37	59.7
1980	54	37	68.5	1986	64	45	70.3
1981	56	39	69.6	1987	66	53	80.3

表3. 収録誌別調査結果

和文献収録誌上位20誌(1980年)

誌名	件数	誌名	件数
日本消化器病学会雑誌	56	臨床と研究	27
胃と腸	48	日本血液学会雑誌	26
臨床血液	48	日本臨床	26
外科診療	40	最新医学	26
臨床外科	38	医学のあゆみ	25
外科	37	内科	25
臨床神経学	35	日本外科学会雑誌	25
理学療法と作業療法	31	プラスミン研究会報告書	25
日本耳鼻咽喉科学会会報	27	日本老年社会科学会雑誌	23
日本臨床外科医学会誌	27	日本消化器内視鏡学会雑誌	22

欧文献収録誌上位20誌(1980年)

誌名	件数	所蔵機関数	所蔵年
American Journal of Cardiology	141	18	1958-
American Journal of Surgery	118	17	1950-
Journal of Neurosurgery	102	19	1944-
Annals of Surgery	97	35	1950-
Cancer	95	28	1948-
American Heart Journal	83	21	1946-
New England Journal of Medicine	79	36	1950-
Archives of Surgery	78	17	1951-
Surgery, Gynecology & Obstetrics	65	29	1948-
British Medical Journal	59	22	1950-
Surgery	53	21	1948-
Radiology	52	22	1950-
Obstetrics & Gynecology	49	14	1953-
Annals of Internal Medicine	45	29	1950-
British Journal of Surgery	45	8	1949-
Lancet	45	34	1950-
American Journal of Roentgenology	42	24	1950-
American Journal of Medicine	41	30	1947-
Annals of the New York Academy of Sciences	37	3	1960-
Circulation	35	29	1950-

(参考分献1より)

表 4. 相互貸借文献発行年別件数 (1980年)

発行年	文献件数	%
1800年代	13	0.18
1900	14	0.20
1910	19	0.27
1920	35	0.49
1930	65	0.91
1940	127	1.79
1950	445	6.23
1960～64	550	1334 18.68
1965～69	784	
1970～74	1504	4977 69.70
1975～79	3473	
1980	111	1.55
計	7141	100

(参考文献1より)

表 5. 依頼件数

年	調査対象機関	総件数 (平均件数)	最多依頼 件数
1976	21	3246 (155)	947
1977	15	3518 (235)	761
1978	16	3449 (215)	910
1979	24	5568 (232)	1289
1980	37	8197 (221)	923
1981	36	8785 (244)	1349
1982	28	7008 (250)	958
1983	32	8363 (261)	1537
1984	33	6944 (210)	956
1985	37	9651 (261)	1649
1986	39	9294 (238)	1650
1987	45	9701 (216)	1683

表 6. 依頼先別件数

依頼先 年	協議会 加盟施設	JMLA 近畿地区	JMLA 近畿外	海外* (BLDSC等)	その他	計
1976	396	1745	1013	/	92	3246
1977	530	2094	814	/	80	3518
1978	485	2176	720	/	68	3449
1979	842	2920	1582	66	158	5568
1980	1411	4118	2455	67	146	8197
1981	2463	4495	1607	87	133	8785
1982	2156	3059	1495	86	212	7008
1983	2735	3201	2241	59	127	8363
1984	2576	2764	1461	31	112	6944
1985	2880	2735	3547	24	465	9651
1986	2771	3036	3034	21	397	9294
1987	3186	2640	3147	21	707	9701

*海外への依頼は、1978年まではその他の項目に含まれている。

表7. 受付件数

年	調査 対象機関	総件数 (平均件数)	最多受付 件数
1980	21	1168 (56)	700
1981	30	1768 (59)	795
1982	28	2957 (106)	879
1983	32	2750 (86)	713
1984	34	4097 (121)	754
1985	37	3858 (104)	599
1986	35	3392 (97)	456
1987	49	3652 (75)	526

